

課題名	1 1. マルチ栽培樹の果実肥大期の糖度から、収穫期の糖度を予測する方法
成果の要約	<p>フィルムマルチをしても、樹に水分ストレスがかからないと収穫時の糖度は高くない。樹体の水分ストレスは葉の水ポテンシャルから判定するのが最も正確な方法だが、葉の水ポテンシャルの測定は時間的な制約を受けるし、測定に熟練と手間を要するので実用的な方法とは言えない。</p> <p>そのため、果実肥大期の糖度と収穫期の糖度との関係からマルチの効果を確認する方法を検討した。</p> <p>(1) 果実肥大期の9月中旬の糖度は収穫時の糖度との相関がきわめて高くなり、9月20日の糖度から収穫時の糖度が予測でき、また、両者の関係には年度や系統による違いはほとんどないことがわかった。</p> <p>(2) この予測式を利用すると収穫時の糖度は9月20日の糖度より約2.5度高くなった。</p> <p>(3) 酸含量は9月10日の酸含量が高いと収穫時の酸含量も高くなる傾向が見られた。しかし、酸含量では年度や系統による違いが大きくて、収穫時の酸含量の予測はできなかった。</p>
成績概要	<div data-bbox="336 714 1077 1217" data-label="Figure"> <p>凡例</p> <p>元年 2年</p> <p>興津早生 △ ▲</p> <p>久能温州 ○ ●</p> <p>11月20日の糖度</p> <p>9月中旬の糖度</p> <p>$y = 1.08x + 1.8$</p> <p>$r = 0.9156$</p> </div> <p>図1 興津早生及び久能温州の9月中旬の糖度と収穫時の糖度との相関</p>
要	

成

績

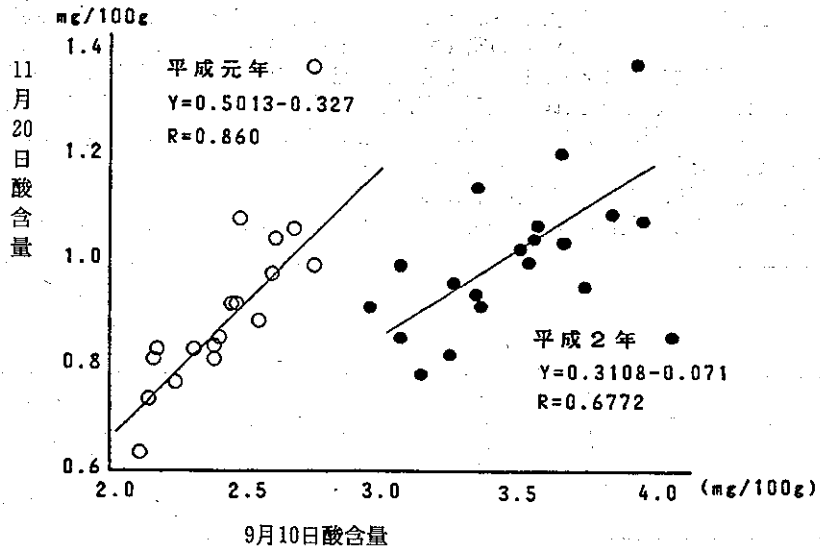


図2 興津早生の果実肥大期の酸含量と収穫期の酸含量との相関

概

要

(果樹試験場)

普及上の留意点

(1) 収穫約60日前に収穫時の糖度が予測できるので、予期したマルチの効果が得られないと予想されるときはマルチを開閉することによって、土壌の乾燥に努める。